

健康・くらし応援予算優先でこそ

介護保険料の大幅引き上げ、学童保育時間延長料徴収、高齢者配食サービス引き上げ・・・その一方で、道の駅・直売所施設の交流館建設推進、関連道路改良などを盛り込んだ平成24年度予算は、委員会で反対した5議員が本会議では賛成にまわり、原案通り可決しました。

西澤議員は3月議会最終日(23日)、平成24年度一般会計に対する討論を行いました。その要旨を一部割愛して紹介します。

予算の中心をなすと思われる事項にしばったものとします。

私は、北川町政の前進面、積極面を素直に評価するものです。それは、第一に、官製談合・不正取水に対し、刑事告訴、告発に踏み切ったことです。刑事責任を問わねばならなかった事案が明確になったにもかかわらず、町行政が毅然とした対応を取らなかった過去と比べるならば、質的な前進と評価しています。この2つの事件とも町民の財産、税金を不正にかすめ取る行為であり、それを許さないとした立場を明確に示したことです。

また、くらしと営業を直接支援する施策では、家計と中小建設業の仕事おこしとなる住宅リフォーム補助制度を昨年創設し、24年度も続いて実施し、手続きなども簡素化し、ワクも広げる、としていることです。

これらの前進面が評価される一方で、来年度の予算編成の重点をどこに置いたのか、という視点で見ると、次のことが言えます。

労働者の賃金の目減りや、年金の引き下げ、農業所得の減退など、どの分野をとっても、町民のくらしはきびしいものがあり、貧困と格差はますます深刻になっています。この責任は、財界とアメリカの利益を優先させている日本政府のまちがった政治にあることは言うまでもありません。国が庶民に冷たいからと言って、冷たい施策をそのまま甲良町民に押し付けることは許されません。

町民の暮らしは軒並み負担増

中心的な課題で見ても、介護保険料の県下1番の大幅な値上げ、基準額で4100円から、5540円に値上げされようとしています。これは、介護保険特別会計の中の限られた問題などではありません。審議会でも、5700円の素案が示されたとき、意見が続出して、決定にいたらず、次の審議会でも、「高すぎて町

民に説明できない」「一般会計からちょっと出してもらって、何とか大幅引き上げは止められないか。」などの意見が出されて、「事務局案が示された」程度の共通認識となって、審議会で値上げ案が確認されたものではありません。その上、負担軽減のための行政内での検討すらされていないのです。

2つめに、高齢者配食サービス負担金についてはご飯有で50%の引き上げ、3つめには、児童クラブの利用料を「公平の確保」という名目で延長料金1000円の徴収が打ち出されました、定時を超えて、働かねばならない保護者の状況に心を寄せない1つと見ることができます。4つめに園芸作物振興支援事業費を減額させています。

これら町民の負担引き上げを求める一方で、関電とNTTの電柱占用料を「地価の値下がり」「国・県の基準」を理由に、町独自の判断が可能であるにもかかわらず、引き下げると言います。

ハコモノ優先

さらに、重要な問題として、「せせらぎの里こうら」の施設拡大についてです。事業主体や経営責任のめどもつかず、北川町長身も唱えている「安定して出荷できる体制」が確立しておらず、「見切り発車」と指摘せざるを得ない直売所の交流館建設と関連する道路改良を含め、2億6100万を投入しようとしています。

私は、本予算の反対にあたって、他の議員が主張している「売り場面積を大きく」とか

丸山光雄さん 繰り上げ当選へ

去る16日、宮崎議員の辞職が確定したため、定数に欠員が生じ、先の町議選挙の開票日から3ヶ月以内であるため、丸山光雄さんの繰り上げ補充が行われるはこびとなりました。

来る28日に選挙会が開催され、丸山光雄さんの「繰り上げ当選」が決定され、当選証書が交付される予定です。すでに、丸山光雄さんには選管から「町役場への招請」の連絡がありました。

あの大寒の中で「不正ゆるさず、安心してらせる甲良町を」とたたかったことが、少し時間はずれましたが、実ることになり、「2議席実現」という嬉しい結果となりました。ご支援をいただいたみなさま誠にありがとうございました。これから二人そろって、みなさんの願いと公約実現めざしてがんばります。

甲良町議員 西澤伸明



甲良民報

2012年3月25日 506号
発行責任：日本共産党甲良町支部
Tel.Fax38-4949

「遊園地などが必要」などの意見にくみするものではありません。

本予算案は、2億2千万円の財源不足を、これらのハコモノ関連費用を優先させて、くらし、健康、子育て、農業応援を切り捨ててしまったものと考えます。

困難・無理のルーツ

直売所、道の駅計画の問題の根本をさかのぼれば、前町長時代に、基礎的な準備がないまま、町民合意も熟さぬうちに土地を議会にも明かさず、取得したこと、その後、追認の決議を行ったことにあります。

このような経過をもった事業だからこそ、現状を見るならば、仮オープンした現在、トイレ、駐車場整備がやがて完了することから、現在の店舗で課題としている果実、加工品、はざかい期の施策など不安材料の克服をすすめ、実績を積み上げ、確信をもって次の段階に進む義務が町行政にはあるものと考えます。その当たり前の姿が、町民の税金で成り立ち、地方自治法で規定されている自治体の役割です。

施設拡大の矛盾とリスク

この機会に、本年度予算が、せせらぎの里こうらの本格オープンをめざすことにかんがりの重点を置いていることに関連して、施設拡大計画・交流館建設を実行に移すことについての矛盾点やリスクについて述べておかねばなりません。

準備万全で臨んだ場合でも、計画と実際は異なることから、新しい事業を開始することに、不安はいつでもつきものです。しかし、今、甲良町の道の駅計画が直面している不安は漠然としたものに留まりません。

「ドロナワ」経営責任

いまだ決まらず

公設民営の基本線は決まっているとありますが、一年後には本格オープンを目指すとしているにもかかわらず、中身の確たる方向も準備も整っておらず、「泥縄」と指摘せざるを得ない。それは次の理由です。

まず、事業運営責任主体、経営責任者が未だだも立っておらず、甲良町側の運営に当たった基本指針が確立していないこと。経営責任者を確立する上での町側の協議案すら決まっています。これは民間同士の契約とは異なることを認識しなければなりません。町が援助できる範囲と期間、出資割合やリスクの負担をどうするか、安全管理などをめぐってどんな契約が成立するのか不明です。町側の条件を簡単に受け入れてくれるとは限りません。町がかなり譲歩しなければ契約成立しないこともありえます。建物を建

設したためにオープンの時期が決まっているため、十分な準備が間に合わない危険があることを考慮しなければなりません。

一口に「公設民営」と言いますが、経営不振や防犯などリスクにかかわる町行政の責任は逃れることはできません。

もちろん成功することもありえます。しかし、現下の経済状況の中で、このようなリスクを乗り切るだけの町民合意、生産体制などは成熟していない、と判断せざるを得ないと考えます。

根本的に国県と事業見直しについて改めて本腰を入れ交渉・協議すべき時期にあることを決断すべきだと考えます。

同和特別終結の方向を

また、来年度も同和特別事業・体制の終結への方向性を示しておらず、甲良町が長年取り組んだ「同和对策最優先」の施策の総括を行い、同和对策事業の中で生じた歪みの部分についても検証し、公正な後始末を進める上でも、今年こそ、卒業の方向性を掲げ、一步踏み出すことを提起するものです。

施設建設は一旦立ち止まり

最後に、ひとこと、12日に建部議長から、この予算が本会議で否決されるよ

うなことがあれば、補助金7800万円が削減されることになり、直売所の利益から返還出来るものではないなどと発言されました。また北川町長は、閉会のあいさつで、この予算が執行されないと町民生活に支障をきたすことになる」と述べられました。しかし、現実には、以上述べてきた通りまったく逆だと考えます。

道の駅直売所拡大計画・交流館の建設関連の予算を凍結させ、いったん立ち止まり、必要な手当、国との折衝、調整を開始し、経営責任の明確化をさせ、出荷体制の確立をはかり、また、町民生活の基盤の支援を強化し、町民、農業生産者が自発的、積極的にこの計画を支えられるようにすべきであることを強く求めたいと思います。

公開の論議こそ

最後に、困難な状況に直面しているとき、私たち議員はそれぞれの信条・政策に基づき、堂々と公開の場で論議することこそ選ばれた議員の責務だと信じるものです。私は、町民の願いが一步步ずつ実現できるよう、世論を高め、議会の内外で尽力することを表明し、討論を終わります。

「委員会否決」

から一変

3月議会を終えて

西澤伸明

6日(全員協議会)の議案説明から始まり、23日3月議会が終わりました。9日の予算決算常任委員会での来年度一般会計予算案に反対した5議員も次々と賛成討論に立ち、賛成の態度を表明しました。議案の中身が変わっていないにもかかわらず、委員会での態度をコロッと変更されたのです。

最終日の本会議開会に先立ち、議員控え室で北川町長が、「委員会ですら否決」の事態を受け、「委員会ですら否決」の議員のみなさんの意見を補正なりで努力したい」と異例のあいさつする場面も。

町民のくらしに直結する予算論議にあつて、北川町長との間で何があつたのか?と思わせる「不透明さ」を感じざるを得ない議会最終日でした。

討論で私が述べたように、くらし・農業・子育て優先の予算とはなっていない。安心して暮らせる町へ進めるため、みなさんと力を合わせてがんばります。

